

としょかんふれんず千葉市

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

第89号 2026. 1. 22

سَمِعْتُ مِنْ هَذَا الرَّحْمَنِ
سَمِعْتُ مِنْ هَذَا الرَّحْمَنِ



デジタル化の進行と文字・活字文化

代表 皆倉 宣之

アナログとデジタル。科学技術の進化はアナログからデジタルへの流れです。そのデジタルの流れの中で私たちが目にしているのが、デジタル書籍（電子書籍）です。紙に印刷された本ではなく、画面で読む本や雑誌のことです。PC、スマホ、タブレットなどで読書することができます。2024年度の電子書籍市場規模は前年比3.9%増の6703億円とか。

ただこのような技術の進歩の流れには、負の側面が生じることが多々あります。その一つに文字・活字をめぐる問題です。昨年11月東京で「文字・活字文化振興法公布20周年記念」集会が開催されました。そこでのメインテーマは「スマホ依存時代の活字文化振興をめざす」でした。

ここでは東北大学教授・川島隆太氏が、スマホが乳幼児から中高生に及ぼす影響について、長年にわたる研究結果を基に報告されました。その内容は多岐にわたりましたが、脳の発達が成長段階にある子どもたち

もくじ

あ・し・た図書館

「出版・流通・書店・図書館にまつわるお話」・2~3	
令和7年度第2回千葉市図書館協議会を傍聴・・・	4
千葉市教育振興財団との面談・・・	5
会員の声・・・	6~7
図書館シテル？トショカンしよう！	
「初めてのビブリオバトル観戦記」・・・	9
Y A「ふたたびの読書」・・・	10
本「書誌情報の誤りを探して」・・・	11

のスマホやタブレットの長時間使用は、情動の不安定化、運動能力の低下、聴力の低下（ひいてはコミュニケーション能力の低下）、語彙力の低下→学力の低下など、様々な弊害をとまなうと言うものでした。

この研究結果から伺えるのは、文字・活字というアナログの重要性です。それを予見していたかのような「文字・活字文化振興法」の意義を改めて再考すべき気がします。しかし、教育現場に目を転じますと、文科省は昨年長年議論されてきた「デジタル教科書」の導入を進める方向性を決めました。逆に外国ではデジタル教科書から紙ベースへの回帰が広がりつつあります。確かにデジタル教科書の利点も多いことは事実ですが、教科書ではなく教材として位置づけるべき

だとの考えがいいのではないのでしょうか。同時に子どものスマホ利用への規制も世界中に広がりつつあります。規制の奥にある真意を考え続けたいものです。



＊ ＊ 2026年度総会のご案内 ＊ ＊

日時：2026年4月4日（土）

10：00～12：00

田島雄一さんから聴く

「魅力的な写真を撮るためには」

13：00～14：50 総会

会場：千葉市生涯学習センター 地下 小ホール

詳細は12頁をご覧ください。

読書会「俳句の本を読む」（第81回）

日時：2026年2月8日（日）14時～16時

会場：中央図書館 グループ研修室

課題本：『夏井いつき、俳句を旅する』

夏井 いつき（悟空出版）2022.3出版

千葉市図書館に1冊所蔵

（前回の報告は8頁）

第18回 としょかんふれんず千葉市 チャリティ 古本市

日時：2026年4月19日（日）11時～15時半

会場：千葉市生涯学習センター1階 アトリウムガーデン 詳細は7頁をご覧ください。

第22回あそぶ しる たのしむ図書館 能勢仁さんのお話を聴く会報告
出てくる出てくる、とめどなく出てくる

出版・流通・書店・図書館にまつわるお話

講師： 能勢 仁さん（出版・書店経営コンサルタント代表）

日時： 2025年12月18日（木） 10:00～12:00（開場 9:40）

会場： 千葉市生涯学習センター 3階 研修室I

参加者： 24名



今回は、本が書店や図書館に届くまでの出版・流通・書店等のお話を、多田屋書店を経営し出版事情に精通しておられる能勢仁氏にお聴きしました。

能勢氏のお話は、千葉市図書館の「デジタルアーカイブ」として、市民の記憶の中にある貴重な情報について、インタビュー等を通じて記録・保存し、公開する「オーラルヒストリー」にも収録されています。

皆倉代表は、2025年8月瑞穂町図書館見学の移動中に、能勢氏は出版・流通に関する質問にすべて答えてくれたことから、今回の勉強会を企画したと挨拶しました。

1. 自己紹介 ～本とのかかわりについて

昭和8年（1933年）、多田屋書店の家系に誕生。

本は今のように入次から各書店に送られるのではなく、千葉神社側ある集配所に送られ、各書店が取りに行っていた。私も子どもの頃は、家業の手伝いとして自転車で行った。

能勢家は本家が東金市にあり支店関係として、本家の命に従った。旧制千葉中時代は、東金から通い、高校卒業後、図書館職員養成所、慶応大学卒業後私立高校教師を経て、S36年、多田屋書店に入社。昭和30年代は高度経済成長期。多田屋はチェーン化し、県内22店舗展開。本が60%、文具15～20%、その他レコード、楽器、おもちゃなどを扱った。音楽教室に本や楽譜のチラシを配るなど読者の開拓に努めた。本が売れ、予算も年々増加した。

多田屋には25年在籍。その後5年間は、「平安堂」に移籍し、郊外型書店の開拓に携わった。

モータリゼーションが進み、駐車場のない駅前から街道沿いの広い立地が書店に必要なようになった。フランチャイズとして、システムに従うことで書店経営ができた。さらにコンピュータの時代となり、POSレジを導入。販売された本をレジに打ち込むことで、入次に連絡が行き、本を送ってくるシステムにより郊外型書店は増加した。

次に5年間、コンピュータ関連の雑誌を販売していた（株）アスキーに入社。流通に乗らない書籍を入次に持ち込むなど、営業・販売・広報などに従事した。本屋は地域密着型であり、店の規模にかかわらず人とのつながりが大切と学んだ。

以降、太洋社を経て、1996年書店経営コンサルタントとして「ノセ事務所」を開業。現在に至る。

2. 出版について

a. 出版のデジタル化の進展と影響

千葉市図書館では4年前に電子書籍を導入した。図書館の電子書籍は理科の授業でよく利用されているが、まだ十分に周知・利用がされていない。また電子書籍は資料費に含まれ、紙の資料費の予算が減っているため、国の支援が求められる。紙の書籍の市場は約1兆円。電子書籍は5600億円から8000億円へと増加している。電子書籍のデメリットは本の中身がみられないこと、本の数やジャンルも少なく、80%がコミックで海賊版も多い。

b. 再販制度（再販売価格維持制度）

出版業界は出版社が個々の出版物の小売価格を決めた定価販売が中心。独占禁止法は、再販売価格の拘束を禁止しているが、1953年（S28）の独占禁止法の改正により適応除外として著作物再販制度が認められている。

c. 公正取引委員会の立場

公正取引委員会は本の定価販売は独占的であるとして、再販制度には公正取引委員会からの行政執行もあり、一定期間経過した本を書店が値引きして販売できる制度（時限再販制度）ができた。かつて、百科事典や文学全集など全集が売れた時代があったが、出版社も再販制度に依存するのではなく、イベントなどで本を売る工夫をとる能勢氏は語った。

d. 大手出版社と中小出版社について

出版社は現在約3000社。437社を調べたが、10億円以上の売り上げがある206社の30%が赤字。5億～1億円の売り上げがある101社の50%、1億円以下の130社の70%が赤字である。しかし、この10年間、出版点数は減っておらず、作りたい本を

作っている編集者の魂を感じる。

大手出版社(集英社・講談社・小学館・角川書店)は1000億円以上の売り上げがあり、雑誌・文庫・新書を出し、雑誌の広告収入が大きい。中でも集英社はコミックの売り上げと著作権を海外に販売する新しいマーケットがある。

岩波書店・みすず書房・筑摩書房・平凡社・河出書房などは、経営危機に陥ることもあり、読者や作家が支えている。

文庫や新書・コミック・雑誌は日本独自で海外にはない。コミックはフランスで人気。イギリスでは、コミックは文化ではないとして販売していないので海賊版が横行。雑誌は日本の書店では店頭に並び、誇るべき文化であるが、残念ながら現在はデジタルに移行している。

3. 流通に関すること

a. 業界の直面する流通問題

ドライバー不足とガソリンの高騰。日版では、輸送費が200億円で人件費190億年に並ぶ。

b. アマゾンを取り巻く環境

アマゾンは1995年オンライン書店として開業。2000年に世界進出した。現在3600余りの出版社と取引しているが、本社はアメリカなので、日本に税金は払っていない。また、労働契約が日本と違う。今後アマゾンの動向に注視していきたい。

c. 世界の出版流通

本を注文すると日本では2週間ほどかかるが、ドイツでは18時までには本を頼むと翌朝には届く。フランス

も早く届く。日本は早く手にしたいときは、アマゾンなどで注文するしかない。

d. 日本の取次について

「取次」とは、出版社と書店との間をつなぐ流通業者を指す言葉。雑誌を中心に配送するために明治頃から日本独自に発達した。

4. 書店に関すること

a. 政府支援策

2024年、書店の閉店が相次ぎ、書店のない町が増加。議員連盟※が文化産業の一部として支援を始める。(※「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」)書店支援として、POSレジの貸出・万引き防止費用・図書館納入書籍のブックカー費用を資料費と別予算とするなど検討。

b. BOOKOFF

大きい書店にもない本がある。文庫が多数。

c. 古書店

若い人が神保町で古書店を開く傾向。

能勢氏は千葉市図書館協議会委員を務め、東京都区立中央図書館、千葉県内の市立図書館、千葉市図書館、千葉市公民館図書室などを訪問されました。その訪問記や比較データとしてまとめた豊富な資料をいただきました。

本が飛ぶように売れた時代と図書館についての逸話もまだまだお聞きしなかった講演会でした。

(運営委員)

参加者より

能勢仁さんの講演「出版、流通、書店、図書館にまつわるお話」を拝聴させていただきました。時代の流れとともに出版、流通、書店の在り様が変わっていった様子など、大変興味深い内容で、出来ればもっとずっとお聞きしたいと思いました。時間の関係で、ほんの少ししかお聞きできなかったのが残念でした。

講演中、本が売れまくった時代、百科事典や文学全集がよく売れたというお話がありました。ふと思い出すのは、私の若い頃の自宅にも小学館の「日本古典文学全集」がお茶の間のガラス戸棚にありました。それらは、母が訪問販売が自宅近くのショッピングセンターの出張販売で薦められたかして、購入したのだと思われます。母はそれほど読書家でもなく、わざわざ書店に行って本を購入するほど熱心な人でもありませんでした。なぜガラス戸棚の本が「日本古典文学全集」だったのかは未だに謎です。家族の誰も手に取ることもなく、ただちょっと知的な香りのする飾りとして役立っていました。お話を聞いて、我が家のような飾られた本の現象は、よそ様の家庭でも、もしや見られた光景だったのかしらと思いました。考えようによっては、あの時代は微笑ましく、のんびりとした時代だったのかもしれない。

〇〇 〇〇

傍聴記

令和7年度第2回千葉市図書館協議会

2025年11月27日(木)10時~11時
千葉市消費生活センター3F 研修講義室
協議会委員10名 図書館職員12名 傍聴5名

佐久間中央図書館長の挨拶より始まった。

■ 議事1: 千葉市子ども読書活動推進計画(第5次)(素案)について

まず、事務局から上記計画についての説明があった。

- ① 第4次計画における子ども読書活動における状況
第4次計画で設定した目標とする数値について「1か月間に読んだ本が0冊の児童生徒(不読率)」は、小学生以外は目標達成が難しい状況。

第4次の課題としては、「中学生以降の読書離れ」については、年齢が上がるにつれて読書量が減少する傾向は長期的に見ても変わらないため、小学生までに形成された読書習慣を全校一斉読書活動等により現在の状況を維持していくことが重要。

- ② 第5次計画における対応

児童青少年向け図書等の充実・計画的収集、中高生向け電子書籍の充実などを位置づけている。電子書籍であれば隙間時間にも読めるため、特に効果を期待。

「りんごの棚」の設置。「りんごの棚」とは多様な児童書(紙の資料だけでなく点字図書や音訳図書等)を1カ所に展示する。特別なニーズのある子どもが自分に適した資料に出会えるよう設置したコーナー。中央図書館で導入済みで、今後は地区図書館へ展開予定。

事業数は類似項目を整理したことで87事業となる

■ 意見・質問 委…協議会委員 図…図書館

委: 団体貸出について、利用者が予約しなくても借りられるようにしてほしい。また、アフタースクールや学童への配本の拡充も検討してほしい。

図: 団体貸出手続きの円滑化、資料配送は課題として認識しているが、予算との兼ね合いも大きく、すぐの対応は難しい部分がある。

まずは、コロナ前の利用数(令和元年度119万件)に戻すことを当面の目標としている。

委: りんごの棚について、具体的なPR方法・貸出や目的は何か。

図: りんごの棚は「多様な資料が図書館にあることを知ってもらう」ための展示。貸出は行わないが、展示

を通して存在を知ってもらい、取り寄せて利用してもらう。

委: デジタルアーカイブは学校教育現場でも使えるよう周知してほしい。

図: アーカイブは今後「どう活用してもらうか」が重点に。一般利用者だけでなく学校現場でも積極的に使って貰いたい

■ 議事2: 千葉市社会教育施設保全計画[公民館・図書館]の策定について(報告)

本計画は、令和7年度~16年度の10年間で、公民館47巻、図書館14館の計61施設を対象に中長期的な維持更新の方針を定める計画である。

老朽化状況・建築年度・利用状況などを踏まえて建て替え・改修の優先順位を総合的に判断。千葉市公共施設全体計画に基づき、面積の適正化も図る。

事務局から6月のパブリックコメントや庁内会議を経て、令和7年度8月に本計画は策定されたと報告があった。

委: 老朽化に伴う再整備計画について

図: 若葉図書館・土気図書室・白旗分館・西都賀分館などは築50年を超えたが再整備の方針が位置付けられた事は成果と考える。

一方、空調などの維持が必要な施設は、長期計画と並行して短期的な設備改修も進める。

委: 子ども食堂や学童に読書スペースを設けたり、商業施設の一角へ読書コーナー設置するなど、より本を利用できる環境を検討してもらいたい。

図: 駅前立地の商業施設との複合は他都市でも例があり、建て替え時には選択肢として検討可能。

若者が滞在しやすい図書館(カフェ併設など)へのニーズも高まっており、意識して取り入れたいと考えてはいる。飲食については、現状では資料保護の観点から制限もあり、休憩スペースなどでの対応は進めている。

図: 学校図書館との連携について

学校図書館との連携はコロナ禍の影響もあり連携が十分でなかった面があるため、今後強化したい。

委: 利用カードの作成について、もっと簡単に作成したいので学校などで全員作成する時間を作れないか。

図: 来館での作成のほか、電子申請でも可能。

また、図書館近隣の小学校には新入生全員に利用申込書を配布し利用カードを作成してもらうように働きかけている。

次回協議会は、2026年3月予定 (運営委員)

千葉市教育振興財団との意見交換会

日時 2025年12月5日(金) 14時半～
場所 千葉市教育振興財団会議室
出席者 財団 深山秀文 千葉市教育振興財団理事長
若菜 寧 千葉市教育振興財団常務理事
高本哲郎 公民館管理室長
中村文香 公民館管理室長補佐
齋藤 健 公民館管理室図書室担当
としょかんふれんず千葉市 運営委員5名

千葉市教育振興財団では、理事長と常務理事が新たに着任され、挨拶がありました。

続いて財団より公民館図書室の運営について説明がありました。

*理事長より

今まで法律関係や許認可を扱う部署でしたが、今回、公民館や公民館図書室とかかわる部署になり、利用者から感謝されることがありとてもうれしい。使命感を持って細かい工夫をしながら職員は働いている。

また、読書が唯一の趣味ですので、本を扱うことは楽しみ。公民館図書室は地域密着でサービスできるかなと思っている。魅力的な図書室になるよう努めます。物事を斜めの方向から見る視線が大事だと思うので、今後も意見を寄せてほしい。

*公民館図書室について

—目標— 「知識を蓄えてカウンターを出て、利用者に提案する」

1 基礎となる取り組み

(1) 公民館図書室運営計画 職員に運営目標を提出してもらうが、毎年同じではいけないので次につなげる継続性を持つものにする。

(2) 書架・資料チェック表 学校連携に関して新たな項目を追加。

2 事業計画

・運営研修会は年2回。

9月の研修会で各図書室より2名参加で、グループ討議は6～7名ずつで話し合い、情報交換するが、好評で時間が少ないという意見も出た。

・図書室訪問

今年度は訪問館数を半数とし、未実施を補完するものとして8月に長作公民館を会場として図書室見学をした。

・公民館図書室担当者会議 年6回

・図書室職員全体研修会 年4回

8月には製本について学ぶため1冊の本をバラバラにして元に戻す作業を研修した。

・全館共通のチラシの作成。夏休み期間中、図書館ホームページ等に掲載し、8月には初めての人も訪れ貸出数が増えた。

3 第4次千葉市子ども読書活動推進計画に関わって、公民館に係る4つを重点に。

(1) 学校との連携 図書室チェック表に下記の項目を追加・変更して確認した。

「公共施設等及び文化祭等での個人への無償譲渡を行ったか」「学校と情報交換し、掲示物や配布物の依頼をしたか」学校と公民館の距離により違いはあるが、連携をとることが大事。

(2) 資料の譲渡 担当者会議前に中央図書館からの譲渡会に年5回参加し、譲渡した。

(3) 研修の充実

(4) 講座の充実 読み聞かせ講座の実施。子供向けと保護者向け読書講座。ボランティア養成講座。ビブリオバトルの実施。主催事業で読書に関する事業を進める。

*運営委員が利用している公民館図書室の様子

・千草台公民館図書室 館独自の大人の読書手帳が作られていて、これを通して職員と交流できるのはいいなと思った。展示は、いつも同じではなく、絶えず新たになっていて、本も手に取りやすい。

・みつわ台公民館図書室 利用者に職員手作りのお土産が、子ども・大人にも用意されている。

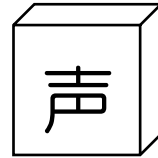
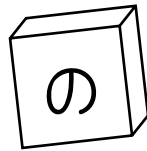
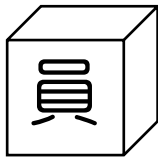
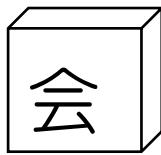
・大宮公民館・誉田公民館 学校と交流ができています。

・さつきが丘公民館 犢橋貝塚公園発掘100年祭では、サークル・地域の方・地域の小中学校・かいづか文庫・図書室が連携して千葉市埋蔵文化財調査センターの協力もあって楽しい地域づくりをしていた。

・全体に職員の資質が上がっている。ワンストップで聞かれた人が答えてくれるようになってきている。

公民館図書室の運営に関して。きめ細かに取り組み、年々チェックしながら改良されている。職員自らが考えて動く工夫が重ねられ、図書室はレベルアップしている。各公民館が交流し意見を言える場を持って活動していることが、公民館一館ではなしえないモチベーションを高めることにつながっていると思う。管理者が変わってもこのレベルを継続してほしい。

(運営委員)



図書館が好き！本が好き！ そんなあなた、いっしょに図書館を知り・使い・ 応援してみませんか？

としょかんふれんず千葉市では、会報を通じて会員との交流や情報の発信に努めています。
チャリティ古本市・講演会・読書会・図書館見学・その他図書館についての学習会や千葉市中央図書館で開
催される読書まつりに参加するなど、図書館や本に関係する様々な活動を行っています。

現在会員は約140名。運営委員7名が会報発行や企画などを行っています。会員になったからと、やらな
ければいけないことはなにもありません。会報を読んで、興味のある活動に参加してください。

会員の皆様からの声が会を支え、図書館を応援する力になります。

当会では、随時会員を募集しています。会のメールまたは、事務局までご連絡ください。

いっしょに、図書館を知り・使い・楽しみながら応援しませんか？



未来のとしょかんふれんず千葉市へ

〇〇 〇〇〇

IT ツールの普及した今、読書も電子書籍での本
読みが主流かも知れないが…

私の読書は何と言っても本物の紙でできた本。それ
ぞれの書籍の内容に合った本の装丁、イラストや活
字が一体となって醸し出すブックワールドに、幼い頃
からどっぷりついていた。小学生の時は、「星の王
子さま」からシャーロックホームズ、そして宮沢賢治や
夏目漱石などの文学まで、暇さえあれば読書に熱
中。寝転んでの乱読がたり、中学生ですでに分厚
いメガネ少女だった。

そんな私が母校の同窓会でとしょかんふれんずの
運営委員 I さんと出会ったのも、運命だろうか。入会
してからは、国際こども図書館の見学、中央図書館
読書まつりや、千葉経済短大・叶多泰彦さんの講演
会、そして春のチャリティ古本市など、多彩で充実
した活動に参加できた。古本市では、ここでしか出会
えない昔の良書や珍書？の発見もあった。

若い人たちにもぜひ、こうした喜びを味わってほ
しい。古本市では、私立高校生もお手伝いに来ていた。
他の活動でも、市内の公立学校の読書委員会やクラ
ブなどにも声かけして参加してもらえば、将来のとし
ょかんふれんず担い手誕生となるかも知れない。



図書館見学に参加して

〇〇 〇〇

本との出会いは、小さなころの学校図書室で伝
記に夢中になり、なんども借りて読みました。

長じて、千葉に転居し、学校図書室以外に千葉市
図書館の存在を知り蔵書の多さに目を見張りまし
た。その後、千葉市図書館の「地域おはなしボラン
ティア」として活動を始め、子どもたちに読み聞かせ
をし、地区図書館に通う回数が増えました。

そんな中、としょかんふれんず千葉市の図書館見
学に参加して、佐倉市立図書館(夢咲くら館)や上
野の国立国際子ども図書館に行きました。

国際子ども図書館は、明治時代、帝国図書館とし
て建築されたのち、国際子ども図書館として改修を
重ね現在に至っているとの事。外観も内装も重厚な
雰囲気があり、建物事態に驚きましたが、「子ども
のへや」には小学生以下の児童書と絵本約1万冊
があり、中央にある円形テーブルでゆっくり読むこ
とができました。「世界を知るへや」には、世界の約5
0の国や地域の絵本や、様々な言語に翻訳された
日本の子どもの本がありました。今までの図書館と
いう認識が大きく変わっていききました。

とはいえ、子どもたちにとっては、親子で近くの図
書館に出かけ、一緒に本を手にとることが一番だ
と思います。どうぞ、図書館にお出かけください。



「としょかんふれんず千葉市」のイベントで楽しみなものの一つが毎年4月に開かれる「チャリティ古本市」です。2022年4月に初めてボランティアとして参加し、あまりに楽しかったのでその日に会員になりました。以来、毎年参加しています。

開催側メンバーで一丸となって進めていく一体感、会場でのたくさんの人や本との出会いがとても好きです。常連のお客さんも多く、「いい企画ですね。毎年楽しみ」と言われると嬉しくなります。お客さんやボランティアの皆さんとお話して、知らない本の面白さを教えてもらったり、好きな本や作家の話で盛り上がり、お客さんが本を探すお手伝いをしたりと、本を通じての交流や新しい本との出会いが古本市の一番の楽しみです。そして、もう一つ密かな楽しみもあります。私も毎年何冊か提供し、「ありがとう、次の誰かに読んでもらってね」と思いつつ見守っていますが、自分が手放した本を誰かが手に取って持って行ってくれるととても嬉しくなります。

企画、古本集め、当日運営等々、運営委員の皆様にはいつも本当にありがとうございます。ご苦勞も多く大変だと思いますが、人と人、本と人を繋ぐこのイベントは、是非これからも続けていってほしいです。

私もできる限り参加していきたいです。



チャリティ

2026 年度 としょかんふれんず千葉市

第18回

古本市

日時 2026 年 4 月 19 日(日) 11~15時半

会場 千葉市生涯学習センター 1 階 アトリウムガーデン



古本は1人10冊までお持ち帰りいただけます。

図書館を応援するために募金を！

いただいた募金は書籍購入に充て図書館等に寄贈します。



ご家庭で眠っている本を 寄付してください♪

- ・ご連絡いただければ取りに伺います。
- ・提供いただける本は、読める状態のものをお願いします。
- ・一般書、絵本、児童書、コミック、雑誌(週刊誌不可)



いっしょに 古本市をやりませんか♪

会場設営、本の運搬・陳列、
来場者への案内、後片づけ等

4月19日(日) 9~16時半
(時間は応相談)

※ご協力いただける方は、ボランティア保険
加入など事前準備のため、4月12日までに
必ず連絡をお願いします。

連絡先
メール

furenzu2021@gmail.com

主催 としょかんふれんず千葉市

後援申請中 千葉市教育委員会(千葉市中央図書館)



地域から

みつわ台公民館・図書室

若葉区 ○○ ○○

モノレールみつわ台駅の改札を出て、右側の階段から下り右方向を見ると、大きな楠の先に公民館の水色の門が出迎えてくれる。花壇には幾種類もの花が精一杯咲いた証を残し次季を待っている。

公民館には27のサークルがある。サークルには所属しておらず主に図書室を利用している。アナログ世代の私にとって、リクエスト本を検索し、すぐ探してくれる職員の存在ありがたい。

毎年2月、朗読サークル「如月」の春の発表会を楽しみにしている。2002年 みつわ台公民館主催事業として開設された朗読講習会を機に、自主的に活動を展開し、全員が指導者であり、生徒であるというユニークなサークルと聞く。発表会も今年で11回目。寒厳の候、引き締まる外出に伴い余韻残るプログラムが楽しみである。

2022年、埋蔵文化財調査センターの小林嵩氏による講座「みつわ台近辺にある遺跡の話」は非常に興味と関心を引いた。地域の歴史を学び、現代の状況を知る上で、身近な公民館・図書室は生涯の友と感じる昨今である。

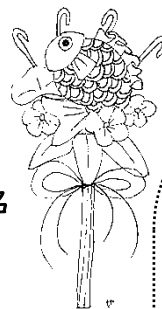
読書会報告「俳句の本を読む」第80回

課題本：『夏井いつき、俳句を旅する』

夏井 いつき（悟空出版）2022.3出版

日時：2025年12月14日（日）14時～16時

会場：千葉市中央図書館 グループ研修室 参加者9名



ぶっく・ぶく

知ってる？

岸信介、1957年～1960 内閣総理大臣。

1964年、旧統一教会が岸信介元首相の自宅隣の土地に教団本部建設。弟の佐藤栄作、1964年～1972 内閣総理大臣。

長女・洋子の夫・安倍晋太郎の子供・安倍晋三は岸信介の孫。

安倍晋三銃撃事件の判決がおりた。

知ったかぶり子

今回から冬の句を読み会った。

〈自嘲 うしろすがたのしぐれてゆくか 種田山頭火〉（1882～1940）

自由律俳句の代表者、荻原井泉水の門下生。大地主種田家の長男として生まれたが、11歳時父親の好色などがもとで、母親が自殺。その姿を目の当たりにした衝撃が一生涯離れず放浪者として、また酒癖として人生を送る。寺男となり雲水姿で各地を旅し句作を続けた。この句、昭和6年49歳の作。翌年自殺未遂。

〈ふるばけしセロー丁の僕の冬 篠原鳳作〉（1906～1936）1931年より沖縄県立宮古中学校（旧制）英語教諭を務める。鳳作は「俳句に何より必要なものは、詩魂の羽ばたきであると無季俳句を推進した」とあるが、著者は「僕の冬」という表現の若々しさが、色褪せぬこの句の魅力と記す。

〈病中吟 旅に病で夢は枯野をかけ廻る 松尾芭蕉〉（1644～1694）辞世の句といわれるが、この句は死の4日前に口述筆記された句。「この夢は希望や期待ではなく、これまで歩いてきた旅の残像であり、旅人として生きてきた己への存問」と著者。では「存問」とは？夢の中でいろいろと思い起こし確かめ越し方を楽しんでいるのか？

〈せきをしてひとり 尾崎放哉〉（1885～1926）山頭火と同じく自由律俳句の代表者、荻原井泉水の門下生。酒癖であったこと、寺男として過ごしたことなども同じ。山頭火との違いはどの記述にも放哉の性格の一端が書かれていること。この句にある「ひとり」の表現がつかなくて読めなくなる。

〈自嘲 水漬や鼻の先だけ暮れ残る 芥川龍之介〉（1892～1927）大正10年（1921）頃のこの句を自殺の際、短冊に書いて残し辞世の句とした。今昔物語をモチーフにした龍之介の小説『鼻』は夏目漱石に絶賛された出世作。句ではその『鼻』を堅持し「ただぼんやりとした不安」とたたかってきたが……。と詠んでいるのか。

〈湯豆腐やいのちのはてのうすあかり 久保田万太郎〉（1889～1969）これまでこの読書会で読みあった句、たびたび出会った句。73歳の万太郎が長男を亡くし、同居していた女性を亡くしそのさびしさに耐えて食する湯豆腐。「いのちのはてのうすあかり」昔はよくわからなかったが。

〈冬ともしもう注射では泣かんのや ゆいのすけ5歳〉親が書きとめてくれたの1句。冬ともしは季語「冬灯」とのこと。「親子の心にともるあったかい灯りのようでもあるよ」とは夏井いつきさんのことば。

次回 2月8日（日）2時～ 中央図書館 グループ研修室（運営委員）



初めてのビブリオバトル観戦記

千葉市教育振興財団 理事長 深山 秀文

当財団は千葉市から47ある公民館の管理を任されており、うち21館には図書室が設けられています。昨年12月6日、川戸公民館で「ゆるっと楽しむビブリオバトル」を開催しました（図書室のない公民館で職員の熱意による取組です）。今回が3回目、本を紹介するバトラー4名のほかに10名を超える見学者の方に参加いただきました。

ビブリオバトルは、バトラーが薦めの本を各自1冊持ち寄り、5分間でそれを紹介し、参加者全員でディスカッション後、1人1票で投票して（自ら紹介した本には投票しない）一番読みたくなったチャンプ本を選ぶというものです。バトラーはレジュメやプレゼン資料を配布しない、ディスカッションでは発表内容の揚げ足をとらない、批判的な問いかけをしない、お互いに楽しい場となるよう配慮するというルールがあります。

読書好きの私も（本嫌いで本を読まない）妻とともに初めて参加しました。机を四角に並べて座り、職員の司会により全員の自己紹介からスタート（妻はいきなり「本は全く読みません」と参加資格を問われる爆弾発言！参りました）、その後、職員からルール説明、自らが1冊紹介する模範演技がありました。

バトラー4名がじゃんけんで順番を決めていよいよバトルがスタート、用意した本を5分間で紹介しました。海外の児童書、盆踊りのお誘い本、キャラクターが主人公の幸福論、そして絵本まで、本当に幅広い本が、あらすじや感動、本に導かれての体験の披露、大型本による絵の素晴らしさの紹介など、様々な思いと工夫で紹介されました。続いて2～3分間でディスカッション、読みどころや好きな文章を尋ねる質問が相次ぎました（本とは無縁の妻がなぜか積極的に発言。本当に驚きました）。最後に全員で目をつぶって挙手して一番読みたくなった本に投票、チャンプ本を選びました。そして『野生のロボット』（ピーター・ブラウン/作・絵 前沢明枝/訳 福音館書店）が見事にチャンプ本に輝きました。

ビブリオバトルは「ゆるっと楽しむ」の看板のとおり、

ジャンルを決めずどんな本でも、どんな紹介の仕方でもOKと大変自由なものでした。1冊の本を読んで批評しあう読書会の堅苦しさとは無縁…。料理コンテストに例えれば、どんな食材でもよし、調理方法は和洋中のほか何でもよくどんな料理をつくってもよし、あれこれとおしゃべりをして最後に一番食べたくなった料理を選ぶ感じ…。料理人はどなたでもつくりたい料理があればOK、参加者は料理経験は不問、食べたい気持ちになればOKというところでしょうか。

チャンプ本を選んだ後は、参加者の皆さんが各自持ち寄った本を時間制限なしバトルなしで熱く紹介しました。ここで終了となりましたが、そのあとも皆さん帰らず、名残惜しそうに本を片手に熱心に語り合っていました（私は場違いの大活躍をしてしまった妻を連れてそそくさと帰りました）。

ビブリオバトルは、ジャンルを問わず好きな本を思うに任せて紹介しあうもので、読書好きなら予想もつかない本と出合ってレパートリーを広げられるとともに、参加者全員での本を介して楽しくコミュニケーションをして盛り上がるゲームでした。引き続き開催を予定しておりますので、思いがけない本との出会い、楽しく尽きない本のお話を期待して、たくさんの方の参加をお待ちしております（妻もその気になっています）。

末筆ながら公民館とその図書室が少しでも利用しやすく親しみやすいものとなりますよう、職員一丸となって努めてまいります。遠慮なくご意見ご要望をお聞かせいただき、今後ともご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※ 観戦記が一部、妻の観察日記となりましたことをお詫びします。





YA コーナー



「ふたたびの読書」

花見川区 ○○ ○○○ (大学4年)

本を読むのは久しぶりだ。大学生になった頃は、1時間半の通学時間は常に読書をしていたように記憶している。ところが、不思議なもので大学での学びが深まるにつれ、通学時間も有効活用したいと考えるようになり、いつの間にか読書時間が課題に取り組む時間になっていた。

しかしながら、昨年末に卒業論文の提出を終え、また自由な読書がしたいと思っていたところ、タイミング良くこの文章を書く機会をいただいたため、かつて好きだった作家の本を何冊か購入してみた。今回はその中で面白かった本を2冊紹介したい。

まず1冊目は伊坂幸太郎さんの『ペッパーズ・ゴースト』だ。軽快で読みやすい文章であり、読み終わった後に爽快感が味わえるので、私が一番好きな作家だ。

主人公である中学教師の檀先生は、他人の未来を少し覗くことができる力を持つ。その力によって、次第にある重大な事件に巻き込まれることになる。魅力的な登場人物や、最後まで予想のつかない展開に、ページをめくる手が止まらなくなった。

本作では、誰かが声高に繰り返す言葉や、急速に広まるネット上の情報を盲目的に信じ込み、誤った正義感から他人を攻撃してしまう行為に対して問題提起がなされている。私自身も、SNS上で他人を批判している人を見ると、憤りを覚えることがある。本作を通して、そうした行動がどれほど危ういものかを改めて考えさせられた。冷静に熟考することから遠ざかると、一つの見方だけを正しいものとして受け入れてしまいがちだが、その背後には見えていない事情や別の立場が存在することもある。一面的な見方にとらわれることなく、立ち止まって考える姿勢を大切にしたい。

2冊目は青山美智子さんの『月の立つ林で』だ。同じ夜空に浮かぶ月と、ポッドキャスト(インターネットを通じて配信される音声コンテンツ。時間や場所を選ばずに自分の好きなタイミングで聴くことができる)をきっかけに、少しずつつながっていく人々の物語である。年齢も

境遇も異なる登場人物たちは、それぞれに悩みや迷いを抱えながら日常を送っている。直接顔を合わせることなく、ポッドキャストから流れてくる言葉や、月を見上げる時間が、彼らの心に小さな変化をもたらしていく。本作は、何気ない日常の中にある人とのつながりや、誰かの言葉が持つ力を静かに描いた作品である。

登場人物たちは、将来への不安や、人との関わり方に悩むなど、誰もが抱えがちな思いを持っている。例えば、長年勤めた看護師を辞めて自由な時間ができたものの、新しいことを始めたり、映画やコンサートに出かけたりするのは億劫で、思うように踏み出せない女性の姿が印象的だった。そんな中でも、自由奔放な弟をうらやましく思う気持ちが書かれており、自分と重なる部分があって、読んでいて共感が深まった。そのように悩みながらも、それぞれが自分なりの歩幅で前を向いて生きていく姿に心が温まった。物語を通して、人生を急がず、少しずつでも着実に進んでいけば良いのだと感じられ、自分自身の生き方についても前向きに捉え直すきっかけとなった。

2冊を通して、情報や言葉の持つ力について考えさせられた。伊坂幸太郎さんの作品では、誤った情報や憶測が人を傷つける危うさが描かれていたのに対し、青山美智子さんの作品では、日常の何気ない言葉や行動が人の心を支える力になることが描かれていた。「考えること、言葉を大切にすること、そして行動すること」を心にとどめておきたい。

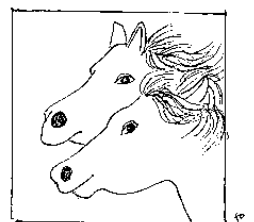
久しぶりに本を読むことで、現実を忘れて物語に没入する読書の楽しさを改めて感じる事ができた。気分が晴れない日も、読書をすると思議と心が穏やかになる。私は数か月後に大学を卒業し社会人になるが、通勤時間はスマホではなく、やはり本を読みたい。

『ペッパーズ・ゴースト』

伊坂幸太郎/著(朝日新聞出版)

『月の立つ林で』

青山美智子/著(ポプラ社)



YA 世代の参加を願ひ、このコーナーを設けています。

書誌情報の誤りを探して

緑 区 ○○ ○○

図書館にどんな資料(書籍その他)があるか探すとき、書架に行き目で見えるやり方(ブラウジング)と、オンラインの書誌情報検索システム(OPAC)を使うやり方がある。

どちらも一長一短あるが、いつでもどこからでも探せるOPACの利点は非常に大きい。

しかし検索すれば存在する資料に必ず辿り着けるわけではない。見つからないさまざまな原因のうち、検索する者にはどうしようもないのが書誌情報の誤りだ。

1 字の誤りが資料の存在を消してしまう。

以下で取り上げる誤りは全てが図書館の書誌情報における実例である。

「^{ぼしん}戌辰戦争」を「^{しん}戌辰戦争」とする誤りは、全国のさまざまな図書館にある(検索してみよう!)。「^{つちのえ}戌」は十干の一つ、「^{いぬ}戌」は十二支の一つ。どちらも干支の字だから紛れやすい。

内田百閒の随筆にもある「^{こしら}虎列刺」の「^{ラッ}刺」を「^シ刺」に誤った「^シ虎列刺」をよく見る。「^シ刺」は馴染みが薄く、古い印刷物では判別しづらいので、誤って入力しがちである。

『カルスト台地と鐘乳洞』の「鐘」は正しくは「鍾」。地元の文物を地域の図書館が間違える例が散見されるのは、地域資料だと自館で手入力することが多いからだろう。

『真書の海への旅』は正しくは『眞書の海への旅』。新字体「真」はよいとして、「書」は「昼」の異体字であり、「書」ではない。

似た漢字の取り違えの定番を少しだけ挙げよう。()内が正しい字である。

桃戦(挑)、枝術(技)、紡績(績)、歌舞伎(伎)、遺唐使・仮名遣(遣)、分析・解折(析)、鳥帽子(烏)、日本書記(紀)、書間(簡)、淘汰(淘汰)、新鸞(親)、未法・顛末(末)、小川未明(未)、原因(因)、因難(困)、瀟酒・洒落(洒)、新訳聖書(約)、微生物(微)、追微(微)、社會(會)、會我(曾)、燈下管制(火)、疲幣(弊)、紙弊・弊原喜重郎(幣)、施律(旋)、晚歌(挽)、桜閣(楼)、洗済(剤)、鳥根(島)、対島

(馬)、悲哀・哀悼(哀)・盛哀(衰)、民語(話)、海庭(底)、提防(堤)、伊井直弼(井伊)、訪門(問)、輿論(輿)、郡書類従(群)、陶冶・冶金(冶)、伝導者(道)

ではクイズを。以下の誤字は何でしょう?

『わが国裁判所の国際法判例』

『東郷元師直話集』

片仮名固有名詞の字の入れ替えもよくある。ヒット歌謡曲「あゝモンテルンパの夜は更けて」は正しくは「あゝモンテンルパの……」。

この手の誤りには「モクスワ」「アスムテルダム」といったものがある。

英語の綴りでは calender (calendar)、grammer (grammar) などが定番。

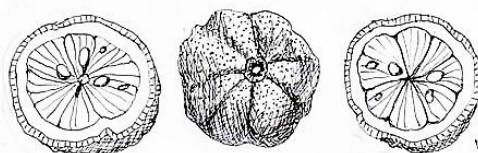
ロシア語では、見た目の似た「з/э」「л/п」などを取り違える誤りや、イタリック体の読み違えが多い(キリル文字の m は r のイタリック体)。また、本から拾った綴りのままでは正しい名前にならないといった文法上の問題もあるが割愛する(実例あり)。

以前、OPACで見つけた誤りをせつせと当該図書館に通報していたが、誤字であっても資料自体が間違っている可能性があるのも、現物を確認する必要があった。表紙と扉と奥付が食い違っていることもあるので、骨が折れる。

OPACの利用者にとって検索で見つからない資料は存在しないも同然だ。館と利用者が協同して誤りを減らしていければいいと思う。

クイズの答

正しくは『わが国裁判所の国際法判例』『東郷元師直話集』



＊2026年となりました。昨年の「としょかんふれんず千葉市」へのご支援・ご協力に感謝するとともに、
本年もどうぞよろしくお願い致します。
4月19日(日)には恒例のチャリティ古本市を予定しています。ご協力・ご来場をお待ちしています。

お知らせ

「としょかんふれんず千葉市」主催

4月4日(土)開催 会場:千葉市生涯学習センター小ホール

① 田島雄一さんから聴く 魅力的な写真を撮るためには

時 間 10:00～12:00(開場 9:40)

講 師 田島 雄一さん (プロカメラマン)

2015年よりフリーカメラマン、現在に至る。千葉経済大学短期大学部こども学科キッズビジネスコース講師。

申込み・問合せ先 メール furenzu2021@gmail.com

② 2026年度総会 時 間 13:00～14:50

会員には、3月会報発行時に
総会資料をお届けします



行ってきました

第15回公民館フォーラム

「公民館をもっと知ろう!」

11月29日(土)13:00～16:00 幕張公民館講堂

共催:千葉・月刊社会教育を読む会、千葉市公民館を考える会

1950年制作の映画「公民館」が上映された。公民館で知識教養を高めようと活動する当時の人々の様子を視聴して、その熱意に圧倒された。

続くフォーラムは、長澤成次氏(千葉大学名誉教授)の基調講演「公民館の歴史から未来を考える」、そして黒砂公民館避難所運営委員会企画運営者による「私と公民館と地域防災」と、宮崎公民館職員による「地域に根差した公民館事業」だった。現状をよくするための創意工夫と実行力が地域住民に波及し、輪が広がり、精力的な活動に繋がる様子がよくわかった。

最後は、公民館についてのグループトークとその発表。様々な立場で参加した人たちが、公民館というテーマで意見交換し、意義ある時間を過ごした。

(運営委員)

【訂正】会報88号の掲載内容について

会報88号に誤りがありました。

「令和7年度第22回読書まつり」【高校生が語るおはなし会】の担当は、敬愛学園高等学校でした。

若葉図書館でのおはなし会を担当している桜林高校は、今回はイベントボランティアとして参加していました。

落丁等ありましたら、右記連絡先までお知らせ下さい

千葉市中央図書館主催

令和7年度 データベース活用講座

読売新聞記事データベース「ヨミダス」の
効果的な検索方法

日時:2026年2月19日(木)15:30～17:00

会場:千葉市中央図書館 2階

講師 読売新聞東京本社メディア局事業部

渡辺英史氏

申込方法:千葉市中央図書館2階カウンターに直接
来館。電話、FAXも可 TEL:043-287-
3980 FAX:043-287-4074

電子申請など詳細は千葉市
図書館ホームページ参照

募集期間:2026年2月17日(火)まで



うごき

11月22日(土) 臨時運営委員会

11月27日(木) 令和7年度第2回

千葉市図書館協議会を傍聴

12月4日(木) 運営委員会

12月5日(金) 千葉市教育振興財団

公民館管理室との意見交換会

12月14日(日) 第80回読書会

12月18日(木) 第22回あした図書館

講師:能勢仁さん

1月8日(木) 運営委員会

1月14日(水) 編集会議

1月22日(木) 会報89号発行

発行者

としょかんふれんず千葉市

代表 皆倉 宣之

【連絡先】

メール furenzu2021@gmail.com

ホームページ URL

<https://furenzu2021.wixsite.com/toshokanfriends>

年会費 一般 1,500円 学生 500円

郵便振替 00150-4-282943